

公開講演会

繰り返す感染症パンデミック

～我々はいかに備えるか～

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は一定の収束を見せ、コロナ以前の状態に戻るべく社会は回復に向かう一方で、傷跡が消えるように、パンデミックの記憶も薄れていきます。人類の歴史において、感染症パンデミックは繰り返され、その都度、文化や政治・経済に大きな影響を与えてきました。本講座では、感染症パンデミックの歴史を振り返りながら、将来におけるパンデミックのリスクを科学的視点から述べるとともに、我々が準備すべき社会基盤について考えてみたい。

開催日時

令和6年 **8月4日** 日

講演時間 14:00～15:30 (90分)

受付開始 13:00～

会場

名古屋大学野依記念学術交流館
2階カンファレンスホール

※対面のみ、ライブ配信なし。

定員

170名 参加費 **無料**

対象：一般の方

要事前申込・先着順

7月29日(月)
申込締切予定

申込方法は裏面へ

講師

独立行政法人 国立病院機構
名古屋医療センター 名誉院長

国立大学法人 東海国立大学機構
名古屋大学 名誉教授



はせがわ よしのり
長谷川 好規 先生

プロフィール

名古屋大学医学系研究科呼吸器内科学教授、名古屋大学総長補佐を歴任後、2019年5月国立病院機構名古屋医療センター院長。2024年4月より名誉院長。呼吸器疾患の診療および臨床研究を専門とする。日本呼吸学会理事、日本内科学会筆頭副理事長、日本内科学会総会会長、日本呼吸学会学術講演会会長の経歴を持つ。新型コロナウイルス感染症においては、愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部医療専門部会長として、愛知県のコロナ対策に携わった。現在は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（通称AMED）の先進的研究開発戦略センター（SCARDA）「ワクチン開発のためのトップレベル研究開発拠点形成事業」のプログラム・オフィサー（PO）を務める。